

2005 年生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生

小山明人

Re-appearance of *Armillaria tabescens* basidiocarps in 2005 from the same cherry tree roots that yielded the basidiocarps in 2002, 2003 and 2004 in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki, Kanagawa, Japan

Akito Koyama

緒言

ナラタケモドキは公園等人手の入った環境に発生する、樹木を枯死させる病原菌であり、管理上発生状況を把握しておく必要がある。2005 年は緑地内のいたるところにナラタケモドキ、ナラタケの子実体が多数発生していた。

生田緑地においては、2002 年より連続してナラタケモドキ (*Armillaria tabescens*) が、ソメイヨシノの同一の 2 本の木の根元から、同じ時期に発生した記録がある (佐藤・太田 2003; 佐藤・太田・吉田 2004, 佐藤・小山 2005)。本年も、昨年と同じ調査木において、ナラタケモドキ子実体の発生の有無と、桜の木の枯死の有無を記録する目的で調査を行った結果を報告する。

調査方法

調査日 2005 年 9 月 15 日から 9 月 29 日

調査木 桜 1、桜 2 (2003 年に枯死, 2005 伐採)。佐藤・太田 (2003), 佐藤・太田・吉田 (2004), 佐藤・小山 (2005) で調査したものと同一木。

調査項目 子実体の出現の有無と時期、桜 1 の樹勢調査。

結果

9 月 15 日。桜 1 は、本年も枯死しなかった。大枝 4 本の内、1 本は健全であり近隣の健全なソメイヨシノと目視比較して同程度に葉をつけていた。1 本は 2002 年にすでに枯死しており、残り 2 本の枝も先端部が枯死していたため 2005 年 1 月に伐採された。桜 2 は地上部 80cm 程度を残して伐採された (2005 年 1 月)。

ナラタケモドキ子実体は 9 月 15 日に株状から単生も含めて桜 1 と桜 2 の切り株の周囲の 15 ケ所に発生したが、すでに枯れたものも数株あった。発生数は 18 日には 22 ケ所、25 日は 6 ケ所、28 日 1 ケ所であり 29 日には発生が終了した。なお 25 日、28 日の発生は伐採された桜 2 の周囲からのみである。

考察

生田緑地において 4 年間連続して 9 月に同じ木からナラタケモドキ子実体が発生した。今後も発生時期と桜の枝枯れに注目し病状の変化を記録する予定である。

Summary

Basidiocarps of *Armillaria tabescens* were observed on the roots of both a dead and a live tree (*Prunus yedoensis*) in 2005. These basidiocarps appeared every September of the last four continuous years.

引用文献

佐藤大樹・太田祐子 (2003) 生田緑地で観察されたソメイヨシノのナラタケモドキ病. 川崎市青少年科学館紀要 (14): 5-7.

佐藤大樹・太田祐子・吉田三夫 (2004) 生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生. 川崎市青少年科学館紀要 (15): 9-10.

佐藤大樹・小山明人 (2005) 2004 年生田緑地内ソメイヨシノからのナラタケモドキの再発生. 川崎市青少年科学館紀要 (16): 11-12.



図 1. 桜 1 の根元に発生したナラタケモドキの子実体 (*Armillaria tabescens*) 2005 年 9 月 10 日撮影。

